

意見交換

アドバイザー

- ・大きい観点からいうと、現在、世界では緑の風がかつてないほど吹きまくっているのに、プラネタリーバウンダリーという形で地球の自然生態系が歪んでいる。我々の生活は主に植物を中心にした自然の恩恵によって成り立っているが、我々はこれまで生態系サービスを資源としてしか考えてこなかった。こういったことを踏まえ、2022年の12月にカナダのモントリオールで昆明・モントリオール生物多様性枠組ができあがった。これは何を言っているかという、これまで世界で唱えられてきたネイチャー・ベースド・ソリューション（NbS）といった社会的課題を、改めて自然という目線から考え直すという習慣をつけようということを受けて、ネイチャーポジティブ（自然からの反転）というテーマ、これを2030年までの国連を含めた世界の目標にしようとなっている。これに対応して、環境省では生物多様性国家戦略の見直しが行われ、農林水産省ではみどりの食料システム政策が策定され、更に国土交通省ではグリーンインフラ（GX）という考え方が導入され、社会インフラをどう充実させるかという方向になっている。つまり、世界が大きく変わろうとして緑の風が吹いている。同時に国内も様々な施策がそういう方向を辿っているということに対して、この企画書では全く触れていないのは少し残念である。
- ・佐賀県は考えてみると日本の先進県であった。佐賀県は、長崎街道沿いからの様々な交流等、世界に開かれた県土であった。その県土の中には、成富兵庫茂安のようにランドスケープをよく理解した上での土木技術者も育っている。そういった佐賀が誇るべきもの、あるいは佐賀で全国都市緑化フェア（以下、緑化フェア）を開催して相応しいというようなもの、それが国の施策や国際的な流れと軌を一にしているというような方向が、この基本構想のなかから組み取れば嬉しい。なぜなら、前年の2027年にそういったメッセージを世界中に発信する国際園芸博覧会が横浜で開催される。その次にレガシーもにらんだ佐賀の緑化フェアが行われる。こういうつながりを付けた論理構成であれば、非常に嬉しいしありがたい。
- ・佐賀県が県の政策として何をするかは、この企画書からはよく分かったが、県民が何を受け取るかが、まだ書かれていない。すでに国も経済的な成長だけではない豊かさを深めていく日本国を創ろうとすることで、Well-beingという言葉を使っている。Well-being 実現のためには、緑や花が不可欠である。佐賀県民が Well-being な県民生活をおくれるきっかけの一つとして、今までのライフスタイルを見直す、あるいは地球環境に対する貢献を考える立場で、緑化フェアに参加していただくといった組立が感じられるような基本構想としてほしいというのが私の考えである。

座長

- ・非常に広い世界的な視点からご意見いただいた。今から Well-being 等の言葉を加えるなど基本計画を修正することは可能か。

事務局

- ・Well-being の話は前回もお話があり、2ページに「花づくり、緑づくりなどの自発の取組によって佐賀の豊かな自然環境を未来につなげていきます」と記載しており、そこで豊かな自然環境を未来につなげていくというイメージで記載している。グリーンインフラやネイチャーポジティブという言葉は明確には使っていないが、佐賀の豊かな自然というもの、森、川、海を未来につなげていきたいというところで表現できていると考える。本日は基本構想の最終回というなかで、できるところは反映していきたいと思う。

座長

- ・アドバイザーからいただいた、広い視点での考え方を外の方等に広く知っていただくためには言葉が重要である。せっかくいただいたご意見なので、もし書くとすれば Well-being、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ等できる範囲内で明記することも検討してほしい。

アドバイザー

- ・修正してほしいわけではなく、こういった考え方を持つてほしいと思い要望した。

事務局

- ・今いただいた思いを背景に踏まえながら、引き続き表現を工夫し、実施計画につなげていきたいと思う。

委員

- ・アドバイザーのご意見を聞き、私も同意した。基本構想案を拝見して、一番強く感じたのは主催者側の思いが前面に出ており、県民がどのように感じるか、どんなことが県民のプラスになるかといった表現が少ないように感じた。いま孤立ということが非常に問題になっているなかで、このような活動を通して人と人がつながっていくという表現が少ない。ネイチャーポジティブ等のトレンドな言葉が入っていると、その言葉だけでイメージが湧く。そういった言葉は積極的に使った方が良いと思う。ただそういった言葉はまだ関係者しか知らないといった現状がある。例えばどこかの駐車場ひとつを整備するにしても全てコンクリートにしないで、一部グリーンを入れると環境にポジティブな効果があるということを、緑化フェアを機に県民が知り、自分の行動の中で地球に貢献することができることを知る。そのためにも、アドバイザーが言われたようなトレンドな言葉を意識して入れていくことが大事だと考える。

座長

- ・県民にどうつなげていくか、県民がどのような価値を見つけるのか、基本構想で足りない部分は基本計画で、何につながって何を生み出していくのかを具体的に記載する必要がある。

委員

- ・開催趣旨を拝見して、佐賀県の言いたいことが非常によく分かった。前回の資料では森川海人プロジェクトの言いたいことは理解できたが、唐突感があり緑化フェアとどうつながるのかが分からなかったが、たしかに佐賀県の自然や歴史を踏まえると、都市緑化と山、川、海というところは切り離せないなと今回の資料でストンと落ちたので、良く変わったなと思った。
- ・7ページの図について、主会場と県全域での展開と書いているが、おそらくここが山の博覧会(仮称)(以下、山博)が二つのベルトの部分にかかるのかなと推測したが、一般の方には少し理解しづらいのかなと思った。どういうふうに連携して、どのように県全域で展開していくのか。このイラストだけでは不十分かなと感じた。差し支えなければ「ここで山博をする」等の文字での明記があってもいいのではないかな。

事務局

- ・7ページのイラストの、県全域での緑化フェアの展開と記載しているところは、山博を考慮しないで作ったイラストであり、主たる会場だけではなく、県全域に広げて緑化フェアを盛り上げていきたいという思いで追加したものである。

委員

- ・主会場以外にも何かが催されることは理想的な動きだと思う。地域との連携を引き続き深めてほしい。

委員

- ・初めて見る一般の方は、主会場3会場とそれ以外にも広がっていくということは、この絵でも理解できると思う。もし追加をするとすれば、イラストの所にも写真等で、県全域に広げる旨を記載すると理解しやすいと思った。

委員

- ・山博はオリジナリティがある。また、それと一緒に緑化フェアを開催するのは、良い意味で戦略的で佐賀らしいと思う。
- ・13ページの交通輸送計画に「公共交通機関を最大限活用」とある。本日、私はこの会場に来るために公共交通機関を乗り継いできたが、かなり大変だった。公共交通機関で県外から来る方からすると、公共交通機関同士の接続が非常に重要である。
- ・23ページに佐賀駅から佐賀城公園まで2.4km 徒歩30分とあるが、とても歩けないと思う。300mくらいであれば人は歩くと思うので、それを踏まえると佐賀駅から佐賀城公園までは8箇所ほど休憩エリアがあれば、歩けると思っていただけるかもしれないが、それはあまり現実的ではないので、やはり佐賀城公園エリアまでバスで来て、公園内を歩くのが現実的だと思う。ただし、佐賀城公園に入ったら、思いのほか抜け道が無いことが分かった。また、歩行者が日常的にあまり歩いていないのでドライバーがスピードを出していると感じた。公共交通機関を使って来る人に向けて、優しいエリアを目指してはどうか。
- ・水辺が多い佐賀県なので風がとても心地良い。これは素晴らしい価値。ただし、クスノキなどの歩道上の木の周辺がボコボコしており、少し歩きにくい。車椅子やベビーカーが通りにくいので、そういったところに気をかけるだけで、ウォーカブルに近づくのではないかな。そういった要素を考えていくことこそが、市民や住民の居場所作りにつながれる可能性があるのではないかと思った。
- ・数年前から「生きた景観」という話がある。人の活動を伴う景観が「生きた景観」と言われている。ぜひ、これを機に素晴らしい景観を、今時の生きた景観というものにつながる取組を期待している。

座長

- ・自分も公共交通機関で来た。佐賀駅前には意外に広場やベンチがあって休める場所もある。緑化フェアの開催時期は春だから関係ないかもしれないが、駅前通りの街路樹が貧相で木陰が少ないように感じた。委員の「生きた景観」というのは、人が集える場所にできてくると思う。佐賀駅から佐賀城公園までの間で、広場やカフェのテラスがあった。福岡ではあまり見ない景色だったので、緑化フェアの期間中にそこを活用できたら良いと思う。
- ・ウォーカブルというには2.4kmは少し遠い。佐賀にはいろんなものが点々と残っている。コンセプトにもあったが歴史を見ながら佐賀を巡る。森林公園や吉野ヶ里公園等もどういった交通計画を立てるのか、基本計画の中で盛り込んでいただきたい。

委員

- ・佐賀県民だが、レトロ館に来たことがなかった。佐賀も知らないことだらけである。自分の興味や関心があるところにしか行ったことがないというところが誰しもあると思う。佐賀県民が各地域に行き、佐賀の名所や施設を、他の県民に説明できるくらいの知識を持てるような仕組みがあると良いと思う。せっかくのイベントだから、佐賀県民が盛り上がり取り組めることを望む。

座長

- ・ターゲットはいくつかあると思う。九州はたくさんのインバウンドが来ているので、外国の方もターゲットになる。近くでは、長崎や福岡もある。福岡から特急で30分くらいで到着する。隣県もターゲット層にあたる。
- ・もう一つ大事なのは、佐賀の方にもいろんなところを知っていただく機会とすること。佐賀の方、特に子ども達が緑と花を使って、それを世界に発信するような活動が盛り込まれていると我々としてはありがたいと思う。そういったきっかけづくりとして、ターゲット層を明確にしていきたい。また、終わった時にターゲットが狙い通り来たのか、もっと新しいものがあつたのかが見えると、今後のまちづくりにもつながると思うのでしっかり考えていただきたい。

委員

- ・基本構想について、全体的には異論はない。
- ・今回のフェアでは「佐賀で開催される」「人」「未来」の3つが大事だと考える。
- ・この基本構想をどのように基本計画に落とし込むかが大事だと思う。
- ・人のいない観光は魅力に乏しく、人がいないと次につながらない。観光において人というものは非常に大事。
- ・5ページ、スローツーリズムという言葉について。定義や目標が難しいが、先ほどグリーンツーリズムという言葉もあつたので、「スローでグリーンな」というような考えも一つだと思う。
- ・飲食物販計画の、食というものにもグリーンや豊かさを感じてもらいたい。
- ・緑化フェアにどのように関わって、豊かな佐賀を感じてもらおうかといった取組を期待する。来た人が喜び、いる人が豊かさを再認識する。次につながる光になる緑化フェアになればと思った。
- ・公共交通機関の充実も課題だと思う。

座長

- ・基本計画に落とし込んでいくためにはもう少しイメージを高めていく必要がある。
- ・グリーンツーリズムという言葉は昔からよく使われており、京都丹波ではフラワーツーリズムという言葉も出てきている。新しいツーリズムのあり方が発見できると良い。
- ・今まで佐賀の人が知らなかったものを発見し、それがレガシーになれば良いと思う。

委員

- ・過去の懇談会の内容を全てではないが、盛り込んでいると感じている。1回目の懇談会の際にも申し上げたが、まちづくりGXの話、気候変動の対応、生物多様性、Well-being等の直接的な言葉は無いが、事務局の話聞いて腑に落ちた。様々なところにそういった精神を盛り込んでいると思う。
- ・先催地の各実行委員会の話を聞く場に出席したが、皆さんが仰るには日頃から公園整備というのは、一つの目標を掲げ、予算を付けて整備をしている。緑化フェアというのは日頃の整備のお披露目の場であると言っていた。具体的にぎふフェアでは、ぎふワールド・ローズガーデンを10年間掛けて立派な施設にした。くまもとフェアでは熊本城のお膝元の道路の一部を歩道に整備し直し、そこを緑化フェアのメイン会場にしたと聞いた。佐賀でも花壇を作ってお花を植えるだけでなく、施設づくりや景観づくり等、既存の公園をブラッシュアップするための整備をいち早く行うべきである。
- ・計画を立てるのも大変だと思うが、施工や花きの生産も含めスケジュールを考えると大変である。最終的には立派な緑化フェアが佐賀県で開催できることを願っている。
- ・7ページで緑化フェアの会場だけでなく、県全体で展開と書いてあり安心した。名護屋城は歴史的に有名な所である。吉野ヶ里もそうである。連携会場として各市町でいろんなハード整備をして種を付

ける。そのハードが来年以降の次のイベントに活かされる。今回、種を植え付けることが最も重要なのではないかと思う。

- ・今回の基本構想をどう基本計画に落とし込んでいくか、議論が必要である。

座長

- ・くまもとフェアは、まちづくりと連携して上手に緑化フェアに落とし込み、ボランティアがすごく育っている。例えば辛島公園がサクラマチとつながって、街路花壇にボランティアで宿根草花壇を作っているが、見事に整備されていてこれだけでも見に行く価値はある。また、終わった後でもくまもと花博というイベントを毎年行っている。産官学が色々な取組を行ってまちづくりの下地になっている。
- ・花の生産者がどんどん減ってきている。福岡でも市長がよく言っているが、まちが花できれいになっていくだけでなく、下支えしてくださっている生産者が育っていかなければならない。
- ・教育との関係という話も出てきた。花や緑をどう教育と結びつけるか。小学校だけでなく、地域の花壇を小学生や中学生ができないか。そのためには早めに計画を立てなければならぬ。また専門家がいないとできないので、花き産業の方や造園会社の方等とつなげていく仕組みが必要である。それがレガシーにつながっていく。前回の懇談会でもあったが、ブレ計画を立てて進められる部分があっても良いのかなと。
- ・3公園が決まっているが今後この公園をどうしていくか。基本計画の中では、緑化フェアが上手に入って、公園の新しい姿を先導すると良いと思う。緑化フェアのためだけに整備するのではなく、1度イベントをすることで人を引き付け、ちょっとずつ整備を進めていって、佐賀に花と緑が増えてくると良いと思う。

オブザーバー

- ・今回の緑化フェアでは会場の1つに吉野ヶ里歴史公園がある。これは県立と国立の一体公園である。そのため、今後、基本計画や実施計画をされる段階で、国としてできることについて、県と調整していくことが必要。
- ・8ページのスケジュールで、会場整備は令和8年度から基本・実施設計／会場整備までとなっているが、実質、整備は令和9年度からである。これまでの緑化フェアは秋開催だが、今回は春開催であるため、半年ほど前倒しの形であり、厳しいスケジュールである。また、予算についても全体的なボリューム（規模）に応じて補助金等の要望があるため、早めに開催に要する費用の把握が必要。このような状況からスケジュールについて、余裕があるようでないと感じた。
- ・5ページのマトリックスのカテゴリーは、グリーンインフラ等のキーワードを増やしてもいいのではないか。

座長

- ・吉野ヶ里遺跡は全国でも珍しい、県と国が一緒に運営している公園であるので、国とも話し合いながら、どういったところが重要なのか、しっかりと話し合いをしていただきたい。国の方にも対応していただけるよう、スピード感のある計画を進めていただければと思う。

オブザーバー

- ・スケジュールの件について、オブザーバーからもご意見があったが、令和10年ということでタイトなスケジュールであると思っている。我々がしっかりと管理し関係者の負担が無いようにしていきたい。

- ・緑化フェアのために、何か新しい物を作るというところは少し考えがある。例えば、国民スポーツ大会(以下、国スポ)ではSAGAアリーナを建設したが、国スポのためだけに建設したのではない。国スポが終わった後どのように使われていくかをしっかりと考えて建設した。全国的にも高評価をいただいている。緑化フェアも、さがデザインの視点を入れながら、緑化フェアを如何にして土台として残していくか、どういった整備ができるのかを考えていきたい。
- ・「歩こう。佐賀県。」で県民の方に健康のために歩こうといった取組を行っている。先ほど委員の方から30分も歩けるのかというご指摘をいただいた。実際厳しい部分もある。駅前の広場も、歩行者の歩きやすい空間を作ろうということで、車線を減らし歩道を広げ大きくリニューアルできた。限られた空間の中で人が歩きやすい空間、中にはテラスを設ける等の工夫も考えていきたい。
- ・佐賀だからできる緑化フェアを目指していきたい。

座長

- ・これまでとは違う新しい佐賀らしさを作っていけると良い。佐賀の良いところを緑化フェアで発見できると良い。
- ・それ以降につなげる仕組みとして、まちづくり部署だけではなく農政部局や教育部局も重要だと思うので、他の部局にも声掛けしていただき横断的に進めていただけたら良い。それがコンセプトの「つなぐ」に結びついてくると思う。

委員

- ・今回の主会場である、森林公園の横には嘉瀬川。佐賀城公園には多布施川、吉野ヶ里公園にも田手川がある。山、森、川や里の緑、まちなかの緑を通じた生物多様性について、鳥に焦点を当てて考えると直接的な線でエコロジカルコリドーを形成しているまちであると考えられる。基本計画の中では、そういった点も触れた方が良い。

座長

- ・18～19世紀まで遡ると公園はもともと都市の肺だと言われていた。今はいろんな機能を持たされていて、あれやっちゃだめ、これやっちゃだめと言われ機能不全に陥っている部分もある。今回、川や海、山をつなげて、都市の中に酸素を巡らせることが大事。県だけではなく、国営、市町の公園等とのつながりも考えていただけると良い。

アドバイザー

- ・今回私が懸念していることは、実はこれまでの緑化フェアは県が主催する形は極めて少なく、ほとんどは政令市が主催していることである。直近では、長野県や岐阜県が県主催であったが、ぎふフェアはほとんどの会場が美濃地域に寄っていて、飛騨が置いてきぼりになり、全県一体になるというところにたどり着かないという懸念があった。働きかけた結果、飛騨の国立公園を会場に設定し、全県一体となった緑化フェアを開催できた。全県をどうフォローするのが課題として残っている。
- ・それぞれの主会場となる公園の個性を磨き上げる必要がある。どこも同じではないかという議論になりかねない。逆算すると早めに手を付けないと整備が間に合わない可能性がある。
- ・コンセプトはレガシーを先に考えておくことが一番重要。これが県民にお返りする Well-being の要素になる。
- ・これからおそらく自然災害や、ワンヘルスという言葉があるように感染症も増えていく中で、自然と生態系を県が確実に着手、整備し、なおかつ県民がそれに参加して、維持管理に当たることができると良い。県民が自らインフラ整備に参加するようなことは、公園緑地だからできることであ

る。県民が参加できるという点が、グリーンインフラの大きな意義である。自らの環境は自らで守る、そういったことを緑化フェアで学び取れるきっかけになると良いと思う。

- ・緑化フェアでは、皇室の方が参加する都市緑化祭という行事がある。これを行う会場が、形式上の主会場となる。こういった点も考えながら、どの公園で都市緑化祭をするか考えていただきたい。

座長

- ・会場については全県でどう対応していくのか、仕組みづくりをしっかりと検討していただきたい。
- ・岐阜では国立公園を会場にしたとの話があった。3つの公園をさらに磨きをかけなければならないという指摘があった。指定管理者や県、国営が入っている所は国と協議し、整備を相談してほしい。そのためには、早めに手を打たなければならない。
- ・教育分野から子ども達を引き込むことを考えると、緑化フェアの前から仕組みづくりを進め、今からメイン花壇を作り小学校・中学校・高校・大学等を巻き込んで、結果を来年ぐらいに出していくぐらいの気持ちでやってほしい。

委員

- ・玄海町には駅が無いが、各市町に鉄道駅があるのは佐賀の素晴らしいところ。5ページのまちづくりを「沿線まちづくり」とするだけでも見えてくることが違うと思う。
- ・佐賀県の強みである鉄軌道が県内を巡っているということを踏まえて、人がまちを巡り、佐賀の皆さんも巡る、それにより、公共交通機関に愛着を持っていただき、その持続性を高めてはどうか。

座長

- ・公共交通機関の問題はまちづくりの課題でもある。採算が合わない問題はあるが、緑化フェアを機にこういったことを考えていただきたい。

委員

- ・令和10年度春開催とあるが、具体的に何月からか。

事務局

- ・まだ明確には決まっていないが、4月、5月、6月くらいになると思う。

委員

- ・生産者の立場としては、春とはいえ3月～6月のどこかというのでは開きがありすぎるので、早めに時期を決めてほしい。

座長

- ・先ほど、オブザーバーからも話があったが、逆算していくと早くしないと時間がない。基本計画を前倒しで進めていくことが大事。オール佐賀でしっかりと話し合いながら進めていただきたい。
- ・今回皆さんからご意見をいただいた。全体構成を変えるのは難しいと思うが言葉を変える等の対応はしていただきたい。